

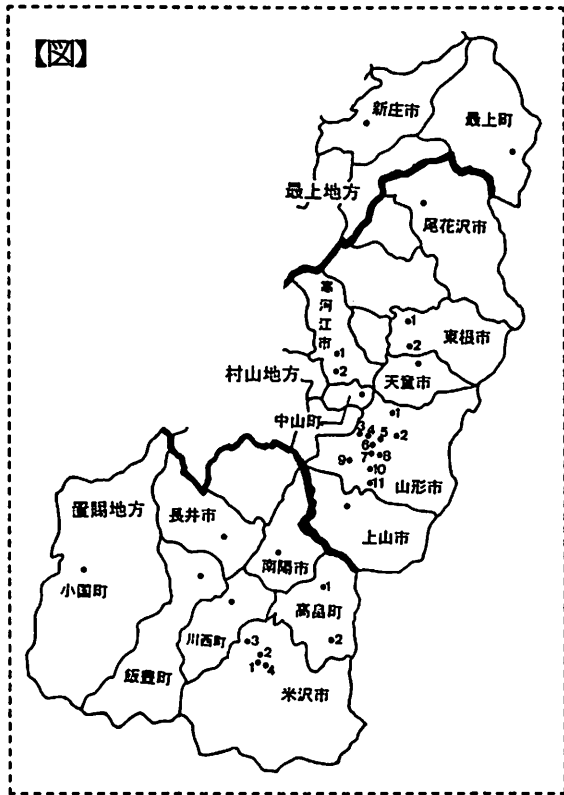
山形県内陸地域における青年層の名詞アクセント

高橋 永行

はじめに

山形県のアクセントは、庄内・最上地方に分布する多型アクセント(型の区別のあるアクセント)と村山・置賜地方に分布する一型アクセント(型の区別のないアクセント)に大別される。多型アクセントは2音節名詞の型により庄内地方と新庄市以西の最上地方に分布する東京式アクセントと最上地方東部・村山地方北部(多型アクセントと一型アクセントの隣接地域)に分布する特殊アクセントに分けられる。有アクセントと無アクセントが接触する内陸地域において青年層のアクセントはいまどのようなのだろうか。本稿では型区別のある青年層のアクセントについて報告する。山形県のアクセント分布と体系は平山1957および佐藤1972に、最上・村山地方の世代別推移については加藤・他1984に詳述されている。

【図】



また無アクセント地域の青年層におけるアクセント獲得に関するものとして仙台市を取り上げた大西1992など各地の報告がある。

1. 調査地点・方法・概要

調査対象者(話者)は1974~76年生まれの生え抜き(その土地で生まれ育ち、外住歴のない)の女性で、調査は1994年5月~7月に1次と2次に分けて2回行った。

1次調査は型区別の有無を確かめるための調査である。【図】に示した32地点で実施した。共通語では型の異なる2音節名詞4組、1音節名詞2組、3音節名詞1組、3音節形容詞5組の12項目を設定した。本稿では【表1】に示した名詞項目を取り上げる。調査は単語とそれを含む文の読み上げ式である。2度繰り返して読んでもらい、それぞれのペアの語について音の調子で2語を区別しているか、していないかという内省を促し、「区別す

る」と回答した場合にはその反省的型を求めた。単語の場合は単語内の高い音節(一型地域の話者は高低ではなく、強弱と捉える傾向がある)を、文中の場合は付属語までの文節内の高い音節を指摘させた。しかし、この質問法では曖昧ながら型区別を持つ場合には不適切であるため、回答に基づいて調査者(筆者)がそのとおり発音し、異なる音相ではないか確認をした。

2次調査は1次調査において型区別を有する項目が複数回答された話者を対象に実施した類別調査である。本稿では2・3音節名詞を取り上げる。調査語例は次のとおりである。

2音節名詞 (()内の数字は所属する類を示す。以下、同様。)

- (1) 鼻 庭 枝 蜂 道 虫 鳥 水 竹 飴 梅 箱 桃
- (2) 旗 川 歌 橋 紙 石 雪 夏 昼 冬 胸 音 靴 池 腕 色 雲
- (3) 花 山 島 馬 足 髪 耳 月 炭 鬼 犬 靴 池 隅 麦 帯 松
- (4) 肩 笠 鎌 空 種 稲 船 糸 針 箸 息 箸 海 隅 麦 帯 松
- (5) 朝 雨 声 桶 窓 井戸 蜘蛛 琴 秋 蛇 鯉 鮎 猿 鶴 糟 白

3音節名詞

- (1) 魚 形 鯛 鼻 血 机 初め 着物 衣 都 (2) 小豆 桜
- (3) さざえ 二十歳 岬 小麦 (4) 頭 男 女 鏡 刀 鋏 袋 表
- (5) 枕 涙 命 朝日 眼鏡 五つ 心 (6) 背中 鼠 雀 狐 鳥
- (7) 鯨 葉 一つ 莓 蚕 兜

同年代の仲のよい友人と話す(方言使用)ときの場面想定で以上の単語を発音してもらい、次にその単語を含む文を自由に作ってもらった。東北方言は主体の表示形式として助詞の付かないハダカ(無助詞)形式が一般的である。そのためハダカ形式で作例された場合は助詞付の形式も求めた。そのうち単語と文節の反省的型を確認した。

2. 型区別の有無について

1次調査における話者の回答を【表1】に示す。

なお各項目の共通語における音韻論的解釈を次に示す。

- A (箸/橋) = /O¹O/ /OO¹/
- B (雨/飴) = /O¹O/ /OO/
- C (柿/牡蛎) = /OO/ /O¹O/
- D (花/鼻) = /OO¹/ /OO/
- E (柄/絵) = /O/ /O¹/
- F (火/日) = /O¹/ /O/
- G (鳥/男) = /O¹OO/ /OOO¹/

アクセント面での区別意識を話者が有し、その反省的型を持つ場合には音調の下げの有無とその位置だけに注目する。またアクセント面での区別意識を有しない項目については一で示し、現れた音相については別の機会に述べる。

1次調査はアクセントが語を区別する指標となっているのかを確認するものである。読み上げ式をとったために話者側からみればいわゆる「共通語的な発音」を要求されたと受け取った人もいたようであるが、全般的には次のような傾向がみられる。有アクセント地域では一部の語を除いて型区別を保っている。無アクセント地域では村山地方と置賜地方とで相違がみられる。村山地方では判断に迷いがみられた語も含め、2音節名詞A~Cの3項目で5地点、1音節名詞E・F 2項目で2地点、3音節名詞G項目では8地点にアクセ

【表1】

地点	一次調査項目																平山氏の分類											
	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4		E1	E2	F1	F2	G1	G2	G3	G4			
	箸	桶	箸が無い	桶が無い	雨	鉛	雨が降る	鉛が欲しい	柿	牡蠣	柿がなっている	牡蠣が美味しい	花	鼻	花が咲いた	鼻が高い	柄を持つ	絵を描く	火が出た	日が出た	鳥	男	鳥が鳴いた	男が来る				
新庄市	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	—	2	*0	—	1	0	1	0	1	0	1	3	最上地方	東京I		
最上町	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	—	2	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	3	特殊I		
尾花沢市	*1	*0	*1	*2	*1	*0	*1	*0	0	1	*0	*1	—	*2	*0	*0	*1	1	0	1	0	*1	*3					
東根市1	1	0	1	2	1	0	1	0	0	1	0	1	—	—	—	0	1	*1	0	1	0	1	0	1	*3			
東根市2	—	—	—	—	—	—	1	*-	—	—	0	1	—	2	0	0	1	1	*0	1	*0	1	1	*-				
天童市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	*-	1	*-				
寒河江市1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
寒河江市2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
s 中山町	1	0	1	*-	1	0	1	0	0	1	0	1	—	—	—	0	1	1	0	1	0	1	0	1	*-	村山地方	一型	
s 山形市1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
s 山形市2	1	0	1	0	1	0	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1	0	1	*-			
山形市3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
山形市4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
山形市5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	*-	1	*-				
s 山形市6	1	0	*1	*-	1	0	1	0	*1	*0	*1	*0	—	*?	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1			*-
s 山形市7	—	—	—	—	1	0	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1	0	1			*-
s 山形市8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
山形市9	—	—	—	—	1	*0	1	0	—	—	0	1	—	*?	—	—	—	—	—	—	1	*-	1	0	1			*-
山形市10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
山形市11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
s 上山市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	*-	1	0	1	*-		
米沢市1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
米沢市2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
米沢市3	1	0	1	*2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
米沢市4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
高島町1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
高島町2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
長井市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
南陽市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
川西町	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
飯豊町	1	0	1	*-	1	0	1	0	0	1	0	1	—	2	0	—	—	—	1	0	1	*0	1	0	1	*-		
小豆町	1	0	1	2	1	0	1	0	0	1	0	1	—	2	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	*2	東京I		

【凡例】 (判断に迷いかわられた場合は「曖昧型」という表し方をする)

1 : 頭高型 (第1音節に下がり目があるもの) 2 : 2音節名詞尾高型 (第2音節に下がり目があるもの)

3 : 3音節名詞尾高型 (第3音節に下がり目があるもの) 0 : 平板型 (下がり目が無いもの)

*1 : 第1音節に下がり目があるとする曖昧型 *2 : 第2音節に下がり目があるとする曖昧型

*3 : 第3音節に下がり目があるとする曖昧型 *0 : 下がり目が無いとする曖昧型

*- : 頭高型ではないとする曖昧型

*? : 2語をアクセント面で区別すると意識するが、尾高型か平板型か判断できない曖昧型

— : 2語をアクセント面で区別しない (できない、わからない) とするもの

ント面での区別があると回答された(〈山形市6〉はC項目で共通語の型と逆の型を示した)。頭高型はかなり明確に意識されているが、「鳥は最初のカが高いが、男は同じ調子(オは高くない)」などのような内省をする話者が多くみられ、尾高と平板の区別は不明確である。つまり、頭高型と平板型の2種だけを区別する特殊アクセントに近い状況である。一方、置賜地方では2音節名詞A・B項目にそれぞれ1地点で「区別する」という回答が得られた。〈米沢市3〉はAに区別を有するが、「橋が」は1回目に頭高相、2回目に尾高相が現れ、起伏幅は共通語のそれより小さく、内省時にはとまどいの様子がみられた。また〈川西町〉はBで単語のみを区別すると回答した。これらは語的な現象で、有アクセント化とはいえない。村山地方では有アクセント化がみられるような結果となっているが、「共通語による影響」であるのか判断はできない。たしかに複数の有アクセント回答が得られた地点は山形市を中心に5地点あるが、うち4地点は【表1】欄外にSで示したように山形全県からの通学者を持つ私立高校出身者である。大規模な調査に因るべきであるが、これらの有アクセント化は庄内・最上(有アクセント)地方からの影響であるとも考えられる。なお置賜地方の話者は11名全員が置賜地方内の通学者を持つ公立高校出身者である。

3. 地域別の名詞アクセント

1次調査において複数の有アクセント(型の区別のある)回答が得られた地点の類別調査による名詞アクセントについて述べる。

(1) 最上地方(新庄市・最上町)

1次調査では〈新庄市〉はE(柄/絵)を除き型区別があり、〈最上町〉は全項目型区別がある。類別調査(方言使用)では1音節名詞は[O:]のように助詞を伴わずに母音を伸ばす長音化傾向がある。〈最上町〉では1・2類は平板型、3類は頭高型に分かれ明確に型を区別するが、〈新庄市〉では1類・2類は[ha:osi¹ru](葉が落ちる)のように平板型(低平)であるが、3類は[ki:taore¹ru/ki¹gataoreru](木が倒れる)[e:kieru/e¹gakieru](絵が消える)のように現れ、有助詞では頭高型、無助詞では平板型になる傾向がある。

2・3音節名詞のアクセントを次に示す。

【表2-1】〈新庄市〉2音節名詞

O ¹ O▷	1型	{3}雲 {4}鎌を除く17語 {5}全14語
OO ¹ ▷	2型	{2}冬 胸 {3}花 山 島 足 耳 炭 鬼 犬 靴 腕 (池)
OOφ・OO ¹ ▷	0・2型	{3}馬 髪 月色
OO▷	0型	{1}全13語 {2}旗 歌 橋 石 雪 夏 昼 (川 音) {4}鎌

【表2-2】〈最上町〉2音節名詞

O ¹ O▷	1型	{3}雲 {4}鎌・稲を除く10語 {5}全14語
OO ¹ ▷	2型	{3}山 耳 鬼 池 腕 (花 島 馬 月 犬) {4}(稲 ¹)

〇〇φ・〇〇 ¹ ▷	0・2型	(2)胸 (3)足 髪 炭 靴
〇〇▷	0型	(1)全13語 (2)旗 歌 石 雪 夏 屋 冬 音(川 橋) (4)鎌

【表2-3】〈新庄市〉 3音節名詞

〇 ¹ 〇〇▷	1型	(3)さざえ 二十歳 (5)涙 命 朝日 眼鏡 (6)鳥 (7)蚕 兜
〇〇 ¹ 〇▷	2型	(5)五つ 枕 (7)一つ 苺
〇〇〇 ¹ ▷	3型	(4)頭 男 女 鏡 刀 鋏 (袋 ² 表 ²) (5)心
〇〇〇▷	0型	(1)全9語 (2)小豆 桜 (3)岬 小麦 (6)背中 鼠 雀 狐 (7)鯨(薬 ²)

【表2-4】〈最上町〉 3音節名詞

〇 ¹ 〇〇▷	1型	(3)さざえ 二十歳 (5)眼鏡 (6)鳥 (7)兜
〇〇 ¹ 〇▷	2型	(5)五つ (7)一つ 苺
〇〇〇 ¹ ▷	3型	(4)女 鋏 袋 表 (男 ² 頭 ²) (5)枕
〇〇〇φ・〇〇〇 ¹ ▷	0・3型	(4)鏡 刀 (5)心
〇〇〇▷	0型	(1)全9語 (2)小豆 桜 (3)小麦 (6)背中 鼠 雀 (狐 ²) (7)鯨 蚕
反省的型無し		(3)岬 (5)涙 命 朝日 (7)蚕

語例を文中第1基本節の位置で発音した場合の反省的型に基づいて分類している。1型は頭高型、2型は2音節名詞尾高型・3音節名詞中高型、3型は3音節名詞尾高型、0型は平板型を示す。()内は曖昧化の認められるもの、異なる音相も現れ、内省時に迷いがみられたもの、ならびに単語単独では型が異なるもの(語の右肩に数字で示す)である。平山1957などによると新庄方言において2音節名詞は語類ごとにまとまった型所属を示す傾向が強く、(1)と(2)は0型、(3)と[a e o]で終わる(4)(5)は2型、[i u]で終わる(4)(5)は1型になる。しかし、本調査の青年層話者は(4)(5)で第2音節の母音の広狭に支配されることなく新庄市では「鎌」、最上町では「鎌・稲」を除いて1型に統合されている。また(3)「雲」は1型である(後述する全地点が同じ)。これらは東京語と一致する。(1)は全語0型であるが、(2)と(3)では語別に型所属に異同がみられる。〈新庄市〉では(2)「冬・胸」は2型であり、(3)「馬・髪・月・色」は無助詞(表ではφで示す)では0型、有助詞では2型である。(2)「川・音」は有助詞では尾高相も現れるが、内省では0型であるという意識を持ち、逆に(3)「池」は無助詞では平板相も現れるが、内省では2型であるという意識を持つ。〈最上町〉でも(2)(3)に同様の傾向がみられる。たとえば「橋」は平板[hafikana¹tta]と尾高[hafi¹kanatta](橋が架かった)の2相現れるが、0型を自身の型とする。また「花」は平板[hana¹tsundeki¹ta]と尾高[hana¹tsundekita](花を摘んで来た)の2相現れるが、2型を自身の型とする。これらは有助詞では明確であり、「橋が」は[〇〇▷]、「花が」は[〇〇¹▷]である。(3)では4語が無助詞では0型であり、また()で示した5語が無助詞では平板も現れる。つまり(2)は0型が優勢であり、また(3)は無助詞では0型も現れる傾向がみられる。新庄市青年層では(2)(3)は2型が優勢であるという加藤・他1984の調査結果とは異なり、これらの話者は(2)では本来の型を保持して、かつ(3)では平板化がみられる。

3音節名詞はもともと語類ごとの型所属を示す傾向が弱いのであるが、〈新庄市〉では2音節名詞でみられた助詞の有無による型の違いはない。ただし、単語単独では「袋・表・薬」は2型であり、これらは文中での型とは異なる。〈最上町〉では一部(頭・狐)に一型音調に特有な[○○○](低中低)という、平山1957で述べられている「中が脹らむ」音相が観察された(語の右肩に^で示す)。ただし本人は無自覚的である。2音節名詞と同様に一部に平板と尾高の区別に曖昧化がみられる。また型を特定できない語もある。(5)の「涙」は[na¹midaosi da][namida¹osida](涙が落ちた)、「命」は[i¹notʃitʃizinda][ino¹tʃitʃizinda](命が縮んだ)のように現れる。有助詞では頭高が現れやすいようであるが、これはアクセント面において共通語と方言とで型が異なることに因ると考えられる。

(2) 村山地方特殊音調地域 (尾花沢市・東根市)

〈尾花沢市〉と〈東根市1〉のアクセントを示す。

【表3-1】〈尾花沢市〉2音節名詞

○ ¹ ○○▷	1型	{3}雲 {4}鎌・肩を除く16語 {5}全14語(朝)
○○ ¹ ▷	2型	{2}昼 胸 {3}雲・犬を除く14語 {4}肩 {5}雨 [♂]
○○ ⁰ ・○○ ¹ ▷	0・2型	{1}鳥 {2}冬
○○ ¹ ⁰ ・○○▷	2・0型	{1}庭 {2}音 {5}桶
○○▷	0型	{1}庭・鳥を除く11語 {2}歌 橋 [♂] 雪 夏(川) {4}鎌
反省的型無し	{2}旗 {3}犬	

【表3-2】〈東根市1〉2音節名詞

○ ¹ ○○▷	1型	{3}雲 {4}鎌・肩・空・糸を除く14語 {5}全14語(朝)
○○ ¹ ▷	2型	{2}川・旗を除く9語 {3}馬 髪 月 鬼 犬 靴 池 腕 色 {4}鎌(肩 ¹)
○○ ⁰ ・○○ ¹ ▷	0・2型	{1}庭 枝 道 鳥 水 箱 {2}川 {3}山 足 耳
○○▷	0型	{1}虫 竹 飴 梅 (蜂 桃)
反省的型無し	{1}鼻 {2}旗 {3}花 島 炭 {4}空 糸	

【表3-3】〈尾花沢市〉3音節名詞

○ ¹ ○○▷	1型	{3}さざえ 二十歳 {5}命 朝日 眼鏡(枕) {6}鳥 {7}兜
○○ ¹ ○○▷	2型	{5}五つ {7}一つ
○○○ ¹ ▷	3型	{3}岬 {4}女 鏡 袋(頭)
○○ ¹ ○ ⁰ ・○○○ ¹ ▷	2・3型	{4}(男 [♂] 刀 [♂] 鋏 [♂]) {5}(心)
○○○ ⁰ ・○○○ ¹ ▷	0・3型	{4}表
○○ ¹ ○ ⁰ ・○○○▷	2・0型	{6}(鼠 雀)
○○○▷	0型	{1}全9語(魚) {2}小豆 桜 {3}小麦 {6}背中 狐 {7}鯨 薬 莓
音節数が異なる方言形式	{5}涙[na ¹ da] {7}蚕[ono ¹ sama]	

【表3-4】〈東根市1〉3音節名詞

○ ¹ ○○▷	1型	(3)さざえ (5)命 眼鏡(朝日) (6)鳥 (7)蚕 兜
○○ ¹ ○▷	2型	(5)五つ(枕' 涙') (7)一つ
反省的型無し		(1)全9語 (2)小豆 桜 (3)二十歳 岬 小麦 (4)全8語(男 [♂]) (5)心 (6)背中 鼠 雀 狐 (7)鯨 薬 莓

2音節名詞において(4)(5)は〈尾花沢市〉では「鎌・肩」、〈東根市1〉では「鎌・肩・空・糸」を除いて1型に統合されている。「朝」は1・2型を併用する。〈尾花沢市〉は「橋・雨」が1次調査と型が異なる(語の右肩に[♂]で示す)。それぞれ1次では0型と1型、2次では0型と2型である。共通語的な発音を求めた1次調査では内省に迷いがみられたが、方言での発音を求めた類別調査では明確で、共通語と方言の違い分けにアクセント面での相違がみられる。この話者は共通語音も明確に使用するが、日常生活では方言音が保持されており、たとえば/si/には[si̯]、第2音節以下の/ci/には[ci̯]が対応し、「橋」は[hasi̯]、「蜂」は[ha[♂]si̯]のように現れる。最上地方と同様に(1)(2)は0型、(3)は2型が優勢であるが、無助詞と有助詞とで型が異なる語がみられる。(1)「鳥」・(2)「冬」は無助詞では0型、有助詞では2型、(1)「庭」・(2)「音」・(5)「桶」は無助詞では2型、有助詞では0型である。また(2)「川」は有助詞で尾高も現れるが、0型を自身の型とする。「旗・犬」は単語単独の発音では平板型(低平)であるが、文中では頭高相に近い発音も現れる。この相が現れるのは話者本人も自覚しており、尾高相も自然であるという意識を持つため、型を特定できない。ただし(1)でも1型の語がある。表には示していないが、「皿」は[sar̩][sar̩rawattahar̩][sar̩rabawadda](皿を割った)である。3音節名詞にも無助詞と有助詞とで型の異なる語がみられ、複雑かつ不安定な状況である。

〈東根市1〉は1次調査D項目で区別がなく、(1)(2)(3)にわたって語類ごとにまとまった型所属を示す傾向が弱い。(1)は無助詞では0型であるが、有助詞では6語が2型である。また「蜂・桃」2語は尾高も現れるが、型意識は0型である。(2)(3)は2型の傾向が強い。また型を特定できない語が7語あり、これらはすべて頭高・尾高・平板の3相現れる。3音節名詞は1型と2型の反省的型だけを示す。これら以外の30語は型を明確に示し得ない。「都」は頭高・中高の2相、「雀」は頭高・尾高・平板の3相現れるが、ほとんどの語は次のような相で現れる。「男」[odo¹no]「男が」[odono¹ga]「男につかまった」[odogona¹ratsukamatta]・「魚が泳ぐ」[saga¹naojoŋu][saganaojo¹ŋu][sagana¹naojoŋu]・「刀に切られた」[kadanaga¹rakiradda] また単語単独の発音では「中が脹らむ」相が現れる。無助詞では中高・平板の2相現れ、有助詞では尾高相が現れる。また2音節名詞でも同様な傾向がある。たとえば「旗が立った」は[ha¹datatta][hada¹gatatta][hadata¹tta]、「花が咲いた」は[ha¹nasaida][hana¹gasaida]、「犬に噛まれた」は[inuga¹rakamadda]のように現れる。単語単独の発音では頭高に近い相が現れる。ただし話者自身は無自覚的で平板という意識を持つ。無助詞では頭高、有助詞では尾高相になりやすい。つまり、語末・文節末からみて-1音節の位置に「下げ」が現れやすい。話者自身は型知覚を有し、共通語的な発音を求めた1次調査においては「男」は

3型であるという回答であったが、方言を使用する場合には自身の発音においてアクセントの山がずれることが意識できるために型を特定できないことになる。これは平山1957で述べられた「第2音節以下最後から2番目までの音節に脹らみを持つ」平板一型の特徴に近いものである。

(3) 置賜地方 (小国町・飯豊町)

【表4-1】〈小国町〉2音節名詞

○ ¹ ○▷	1型	{3}雲 {4}笠を除く17語 {5}全14語
○○ ¹ ▷	2型	{2}全11語 {3}雲を除く15語 {4}笠
○○▷	0型	{1}全13語(箱)

【表4-2】〈飯豊町〉2音節名詞

○ ¹ ○▷	1型	{3}雲 {4}鎌を除く17語 {5}全14語(糟)
○○ ¹ ▷	2型	{3}花
○○ ^φ ・○○ ¹ ▷	0・2型	{3}花・雲を除く14語
○○▷	0型	{1}全13語(道虫) {2}全11語(雪) {4}鎌

【表4-3】〈小国町〉3音節名詞

○ ¹ ○○▷	1型	{1}都 {3}サ ^エ 二十歳 {5}枕涙命朝日眼鏡 {6}烏 {7}蚕兜
○○ ¹ ○▷	2型	{5}五つ {7}一つ
○○○ ¹ ▷	3型	{4}女袋表(男 ^φ) {5}心
○○ ¹ ○ ^φ ・○○○ ¹ ▷	2・3型	{4}(鏡 ^φ)
○○○▷	0型	{1}魚形机初め着物衣(鯛鼻血) {2}小豆(桜 ¹) {3}(小麦 [˘]) {6}背中鼠雀(狐 [˘]) {7}鯨莓(菜 [˘])
反省的型無し		{3}岬 {4}頭刀 鉞

【表4-4】〈飯豊町〉3音節名詞

○ ¹ ○○▷	1型	{3}さざえ二十歳 {5}枕涙朝日眼鏡(命) {6}烏 {7}蚕兜
○○ ¹ ○▷	2型	{5}五つ {7}一つ
○○○ ¹ ▷	3型	{4}男女刀袋表(鉞 ^φ) {3}岬
○○ ¹ ○ ^φ ・○○○ ¹ ▷	2・3型	{4}鏡(頭) {5}(心 ^φ)
○○○ ^φ ・○○○ ¹ ▷	0・3型	{1}着物衣(形 [˘]) {2}桜
○○○▷	0型	{1}魚 鯛鼻血机初め(都 ²) {3}小麦 {6}鼠雀狐(背中 [˘]) {7}鯨 菜 莓
反省的型無し		{2}小豆

2音節名詞において〈小国町〉は共通語とほぼ同じ語類ごとの型所属を示す。〈飯豊町〉は{1}{2}は0型であるが、{3}は「花・雲」を除いて無助詞では0型、有助詞では2型である。0型の()内の語は尾高も現れるが、0型が自身の型である。助詞の有無に関わらず2型で

あるのは「花」1語である。

3音節名詞は2音節名詞に比べ、音相面で一型音調の影響がみられ、複雑な様相である。両地点で「中が張らむ相」が観察され、「鏡」は無助詞では2型、有助詞では3型である。〈小国町〉は「男」が1次調査と型が異なるように特に(4)で曖昧化、無アクセント化が著しい。(1)の()内の2語は無助詞では尾高も現れる。また〈飯豊町〉は(1)(2)のうち4語が有助詞では3型である。

(4) 村山地方一型音調地域 (中山町・山形市7)

1次調査で複数の型区別の回答があった5地点のうち〈中山町〉と〈山形市7〉を示す。

【表5-1】〈中山町〉 2音節名詞

〇 ¹ 〇〇>	1型	{3}雲 {4}鎌を除く17語 {5}桶を除く13語
〇〇>	0型	{1}全13語 {3}(花) {4}鎌 {5}桶
〇〇 ¹ >	2型	{2}旗歌石音(川橋雪夏胸) {3}花・耳を除く13語
反省的型無し		{2}昼冬 {3}耳

【表5-2】〈山形市7〉 2音節名詞

〇 ¹ 〇〇>	1型	{3}雲 {4}空船糸息海麦帯松糟白 {5}声窓井戸琴秋鯉鮎猿鶴(朝雨)
反省的型無し	A	{1}全13語 {2}歌・冬を除く9語 {3}雲を除く15語 {4}鎌
	B	{2}歌冬 {4}肩笠種稲針箸隅 {5}桶蜘蛛蛇

【表5-3】〈中山町〉 3音節名詞

〇 ¹ 〇〇〇>	1型	{3}さざえ二十歳 {5}枕涙命朝日眼鏡 {6}鳥 {7}蚕兜
〇〇 ¹ 〇〇>	2型	{5}五つ {7}一つ
〇〇〇 ¹ >	3型	{4}(男女袋表頭 ² 鏡 ² 刀 ² 鋏 ²) {5}(心)
〇〇〇〇>	0型	{1}全9語 {2}小豆桜 {3}小麦 {6}背中鼠雀狐 {7}鯨葎
反省的型無し		{3}岬 {7}葎

【表5-4】〈山形市7〉 3音節名詞

〇 ¹ 〇〇〇>	1型	{3}さざえ二十歳 {5}枕涙朝日眼鏡 {6}鳥 {7}蚕兜
〇〇 ¹ 〇〇>	2型	{5}五つ {7}一つ
反省的型無し	A	{3}岬 {4}女男鏡鋏袋表
	B	{1}全9語 {2}小豆桜 {3}小麦 {6}鼠雀狐 {7}鯨葎
	C	{4}頭刀 {5}心 {6}背中

2音節名詞において〈中山町〉は(4)(5)は2語を除いて1型である。1次調査では平板と尾高の区別は不明確であったが、2次調査では調査を重ねるにしたがって尾高を意識するようになり、(2)(3)は音相において起伏の幅は共通語よりも小さいが、尾高相で現れる傾向がある。型を特定できない3語は平板・尾高の2相が現れるが、頭高相ではないという意

識が強くみられる。〈山形市7〉は(4)は18語中10語、(5)は14語中9語が1型である。これらは頭高相だけが現れる。型を特定できない語は音相面で異なる現れ方をみせる。A群の語は頭高ではないという意識が強く、音相は平板もしくは尾高相で現れる。B群の語は意識面でも音相面でも不安定なものである。

3音節名詞では〈中山町〉は曖昧ながら0型と3型の区別を有する。ただし(4)の4語は単語では2型であり、文中での型と異なる。〈山形市7〉は1型を自身の型とする語がみられるが、型を特定できない語がより多くみられる。A群の語は文中では音相が尾高で現れるものである。ただし、単語だけを発音すると「女」を除いて「中が脹らむ」音相が現れる。B群は無助詞では平板、有助詞では尾高になりやすいものである。C群は意識面でも音相面でも不安定なものである。

むすび

当該地域においては頭高型が共通語に近い語所属を示す傾向が全般的にみられ、最上地方では尾高型の平板化への移行、村山・置賜地方の一型音調との接触地域では曖昧化、一型音調地域では村山地方の一部に有アクセント化がみられることを述べてきた。青年層のアクセントには共通語を含みさまざまな影響が考えられ、地域差よりも個人差が大きいように思われる。たとえば特殊音調地域村山市内の公立高校出身〈東根市1〉と一型音調地域山形市内の公立高校出身〈東根市2〉とでは曖昧化、無アクセント化の程度差が著しく、学区および有アクセント地域からの通学者を有する私立高校と無アクセント地域からの通学者を有する公立高校で相違があるように思われる。青年層においては環境面での条件の異なる高校ごとに詳細な調査をする必要性を感じる。これは今後の課題である。

《参考文献》

- 平山輝男1957 「日本語音調の研究」 明治書院
佐藤亮一1970 「アクセント調査法についての一考察」『国語学研究』（『論集日本語研究2』有精堂に再録）
佐藤亮一1972 「山形県方言概説(アクセント)」山形県方言研究会編
加藤正信・城戸健一・牧野正三・佐藤和之・小林隆1984 「曖昧音調地域における世代別アクセント推移の研究 —山形県の有アクセント・無アクセント接触地帯の音相分析—」『応用情報学研究年報 10-1』東北大学電気通信研究所
大西拓一郎1992 「方言の現在(9)方言アクセントの現在 — 仙台市方言におけるアクセントの獲得を中心に」『日本語学 11-10』明治書院

(たかはし ながゆき・米沢女子短大講師)